

この度はお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

この作品に含まれる全ての画像について以下の行為はご遠慮ください。

- ・ウェブサイトや各種SNS上にアップロードする
 - ・イラストの加工
 - ・オークション(ヤフオク、eBayなど)への出品
 - ・転売
- ご協力ありがとうございます。

Please refrain from the following acts about all images included in this work.

- ・Uploading on website or any other social media.
- ・processing.
- ・Putting up for auction (such as Yahoo! auction,eBay).
- ・retouch.

Thank you for your cooperation.

关于这个作品包括的所有画像请不要做以下的行为。

- ・在网站或各种SNS上传
 - ・处理图片
 - ・拍卖(雅虎拍卖, eBay等)展览
 - ・(用于个人销售博客等)转售
- 感谢您的合作。

이 작품에 포함되는 모든 그림에 대해서,

이하의 행위는 하지 말아주세요.

- ・각종 웹사이트나 SNS에 업로드
 - ・그림의 가공
 - ・경매 사이트에 출품
 - ・(개인 판매용 블로그 등에서의) 재판매
- 협조해 주셔서 감사합니다.

それではごゆっくりお楽しみください。

行方不明の魔法少女ピュアルイグニスを探すべく、魔物の巣に潜入したピュアルアイシス。ザコを蹴散らし、奥へと進む。今まで何度も巣を壊滅させてきた彼女にとって、いつも通りの任務のはずだった――。



ピュアルアイシス

本を愛する大人しい女の子。
しかしその正義の心は強く静かに燃えている。
その強い正義感によって魔法少女に選ばれる。
冷静沈着、非情さの上に強い魔力を持っており、
並大抵の魔物では太刀打ちできない。
ピュアルイグニスという相棒がいる。



姿は見えないが邪悪な気配で魔物が潜んでいるのがわかる。



蠢く肉壁と漂う瘴気。薄暗い魔窟を探索する魔法少女。ようやく見つけた仲間、魔法少女イグニス。触手に囚われていた。

その気配に向けて怒りに満ちた瞳で睨む。凍てつく魔力が溜まっていく。
アイシスは杖を構えるが、触手がイグニス締め上げる。



彼女のうめき声に、アイシスの動きが止まる。

……！



闇から這い寄る触手が足元を絡め取り、逃れる術なく身体を拘束していく。



本来ならこんな触手、あつという間に殲滅できるが動けない。

ぬるぬるとした触手が、執拗に体をなぞり、魔法少女の衣装に粘液が染み込んでいく。

……っ！

正義の象徴の魔法少女の誇りを汚され、怒りが募る。



う……く……っ
やめろ……この下衆共……っ



触手の擦れる音が響く。その固い意思を解きほぐすように……。

ぬるぬるとした粘液を纏った触手が、いやらしくも執拗にアイシスの肢体をなぞり、
純白の衣装に汚濁の跡を刻む。



触手は滑らかに、執拗に、肌と衣の境界を這い回る。
その全てが次第にねっとり光沢を帯び、少女の尊厳ごと蹂躪されていく。

粘液の中からゆっくりと姿を現す魔物。



……！

こいつが、この巣の主。イグニススの魔力を貪った張本人。
不気味な眼孔がアイシスを見据え、細かな触手が蠢き出す。
光もない、感情もない、ただ喰らうことだけを目的とした冷たい視線。
その邪悪な魔力でこの巣の主であるとわかる。
ぬるりと滑る触手が、容赦なくアイシスの身体を愛撫する。



.....う

う
う
う

……この程度…たいしたことない…

とっ…

ん…

しかし、魔力は確実に奪われていく。
穢された感覚が、彼女の身体を侵食する。
それでも、アイシスの心は折れない。今はまだ。



刺激によって魔力が吸収されていくのがわかる。
まだ抵抗する意思を屈服させようと押し寄せる触手。
彼女の身体にさらに巻き付き、肌を愛撫する。

そしてぬるぬるの粘液に塗れた、おぞましい形の触手が新たに迫ってくる。



太い触手が容赦なく入ってくる感触に、思わず声が出る。

く…っ！

ぎゅっ♡

ぎゅっ♡
ぎゅっ♡

ぎゅっ♡

ぎゅっ♡

ぎゅっ♡

ここで屈したら仲間を助けられない。絶対に耐えてみせる。
力を入れるがその締め付けがさらに触手を興奮させている。



容赦のない触手。
イボイボが擦れるたびに腰が震えてしまう。

うっ…くっ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

ただひたすら無言で耐えるアイシス。



調子に乗るなよ…下衆な魔物共が…!!

ズン…♡

ズリリ…

激しい触手の猛攻をなんとか耐えたアイシス。
しかし魔物はすべてわかってるかのよう
に次の行動へと移っていく。



触手の動きがさらに激しくなっていく。
まるでさっきまでは試していたかのような動きでうねる。



乳首とアナルの刺激がプラスされ、成す術なく震えるアイシス。



だ、だめだっ

やめろっ

んおオっ♡

おっ おうううっ

グッ

グッ

グッ

グッ



うああっ♡

んんん

んんん

あっ♡♡♡♡

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

刺激の果て、熱い体液が膣内に放たれ、彼女の身体を穢す。

はっ♡ はっ♡
く、くそ…この私が…こんな…♡

ドク…

ドク…

ドク…

ドク…

ドク…

アイシスは絶頂の波に震え、魔力が一気に吸収される。
穢れと屈辱が彼女の心を締め付ける。



ぐ…っ！負ける…ものか…！！

アイシスの身体は、触手の無慈悲な動きに翻弄され続けていた。
彼女の肢体は汗と粘液にまみれ、限界を迎えつつあった。



先ほどの激しい射精の余韻すら許さず、新たな快感の波が押し寄せる。
二本の触手が容赦なく掻き乱し、肌を滑るたびに、鋭い快楽が全身を駆け巡る。

くっ……この……程度で……私がああ……っ

グチャッ♡

あぐううっ♡ は、はげしっ♡
ま、まで……っ も、もう……っ!

グチャッ♡

グチャッ♡

彼女は歯を食いしばり、最後の抵抗を試みる。
だが、触手はまるで彼女の決意を嘲笑うかのようにより激しく動き始めた。
触手の先端が膨張し、射精の予兆を明確に示していた。



や、やめろおお…っ♡

ひあああっ♡♡♡…いや…っ♡

痙攣するアイシスは快楽と疲弊の狭間で揺れ動く。
まだ反抗の闘志が宿っているが、触手の執拗な責め苦に揺らいでいる。



その反応を愉しむかのように、まだ残った精液を一滴残らず吐き出す。

触手の執拗な責めによって、呼吸は荒く乱れている。

意識は快楽の余韻に霞みそうだったが、強い意思によってなんとか踏みとどまっている。



許さない…っ
イグニスを助けたらお前なんか…!!

ぐったりとした身体を無理やり支え、目の前に蠢く魔物を睨みつける。



しかし、その時、アイシスの視線が魔物の背後に移り、彼女の動きが凍りつく。

っ
!?

その信じ難い光景にしばし言葉を失う。



そこには邪悪な魔力を放つ、少女が立っていた。
その顔はまぎれもなくイグニスのものであった。

フッフ…アイシス、ずいぶん無様な姿ね。

…な、なにをしているの…イグニス…!!

放たれる魔力の濃密さは、アイシスが知るイグニスとは別人のようだった。



アイシスから奪った魔力によって背後の魔物が変化していく。
イグニスに何か指令を出しているようだ。

…はいご主人様。

この愚かな魔法少女の魔力を限界まで搾り取って
抜け殻にして差し上げますわ。

邪悪な笑みで迫るイグニス。もう抵抗できる気力は残っていなかった。



アイシスの身体は地面に押し付けられ、イグニスと密着する。

く…っ 正気に戻れイグニス…っ



フフ…怖がらないでアイシス、気持ちよくしてあげるから…♡

触手の先端がゆっくりと入っていく。
わずかな動きで彼女の身体が反応する。

や、やめろ……あ……っ ああ……っ！

こんなに感じてるのに、やめるなんて無理よお
ああ……♡ あったかい……っ♡





ひあああっ! あああ...!
お、奥まで突くなああっ♡ あぐっ♡

ほらっ アイシスっ♡
ご主人様の愛はこんなにも気持ちいいのっ♡

あなたも受け入れるのよっ♡
あっ♡ イクっ♡ イクイクイクううっ♡





いひひ…っ♡き、きもちイ…っ♡
おちのぼサイコーっ♡こんなの病みつきになるううっ♡

ドゥ…

ドゥ…

ドゥ…

グヒョッ

あ…っ♡はああ…っ♡ま、まだでてる…っ♡



尻肉を力強く広げ、魔物の触手がより深く侵入するよう導く。

いくらあなたでも、
これだけ魔力を奪われればもう抵抗できないでしょ？

ぐにゃ...♡

さあ、ご主人様...ココを好きなだけ味わってください♡



粘液に塗れた触手の先端が、彼女の敏感な部分に触れ、
わずかに触れながら侵入の直前で止まっている。

くっ
うっうっ！

やめろおおお…っ！

ふふ、強情な魔法少女のひくひくアナルが、
ご主人様を待っていますわ…♡
さあ…ぐっぞ♡





ああ...♡ご主人様気持ちよさそう...♡
この体は全部ご主人様のモノ...めっちゃくちやにしてあげてください♡

くうう...っ！ そ、そんなもの...っ

アッ...♡

アッ...



うっ...うぐうう...
くっ...こんなの...耐えてみせる...うっ

ほらっ 気持ちいいでしょっ♡ ああっ
もう出ちゃうううっ♡





ふふ...まだまだご主人様は満足してないみたいよ...♡

うああ...っ も、もっやめり...♡

はあ♡

はあ♡

ドク...

ドク...

グビッ

ドロオ...

ドク...

グビッ

魔物の熱く脈打つ 極太触手が近づく。
極太の触手が彼女のおまんこの縁を優しく擦り、
ひくひくと反応する部分を広げようとする。
その熱い脈動が、彼女の神経を鋭く刺激し、抑えきれぬうめきが漏れる。

あうっ……っ こんなこと……もうやめるおっ……っ！

ふふ、そんなこと言って……
ぐちょぐちょじゃないアイス……
遠慮しないでこのご主人様の贈り物を、ゆっくり味わいなさい♡



極太の触手が押し込まれ、内部を満たす熱い感覚が全身を駆け巡る。
脈打つ触手が敏感な部分をえぐり、身体がビクンと跳ね上がる。

イグニスには甘い息を耳元に吹きかけ囁く。

だ、ダメだ…イグニス…これ以上は…っ
ひぐっ…くうっ♡

ふふ、そうよ…もっと深く…もっと深く感じるの♡
もっと感じて…濃厚な魔力を捧げるのよ…♡





そうっそうよアイシスっ♡もっと感じてっ♡
限界まで…っ♡ああ…すごいっ♡





魔物の巨大な姿がアイシスにさらに密着する。
極太の触手が膣内を容赦なく突き上げ、内部を満たす。

もっやめろ……っ

うっ ああっ な、なかで動いて……っ

ああ……そんなに深く……♡
私も欲しい……♡

全身がガクンと揺れ、触手の動きに完全に支配されている。



魔物の触手がさらに激しく動き、腹を押し上げるように膨張する。

も、もう…っ やめ…っ がっ♡ ああっ♡
ゆ、許してっ♡

これ以上は…っ 無理いっ♡

ふふ…ご主人様あ…そんなに気持ちいいんですかあ？♡







すごいわ...♡
そんなにたっぷりご主人様の愛を...羨ましい...♡

うああ...あああああ...♡

極太の触手が激しく掻き乱す中、抵抗する力を完全に失ったアイシス。
イグニスが彼女の口を塞ぎ、されるがままに犯される。

んばおおお…っ！ううう…んぐうう…！！

ふふ…奥までしっかり啜えるのよアイシス♡



イグニス は喉の奥をさらに圧迫し、彼女の声を完全に封じる。
動きが一層激しくなり、全てを同時に支配する。

おーおー…っ！うむうう…んん…っ！

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

うぐうううう…っ！

極太の触手が内部を突き上げ、敏感な壁を擦り、身体を限界まで追い詰める。



はああ…♡
もうずいぶん前から魔力が空になってたけど…
つつい楽しいじゃった♡

さあご主人様…あとは…

い…いぽほ…♡

ドク…

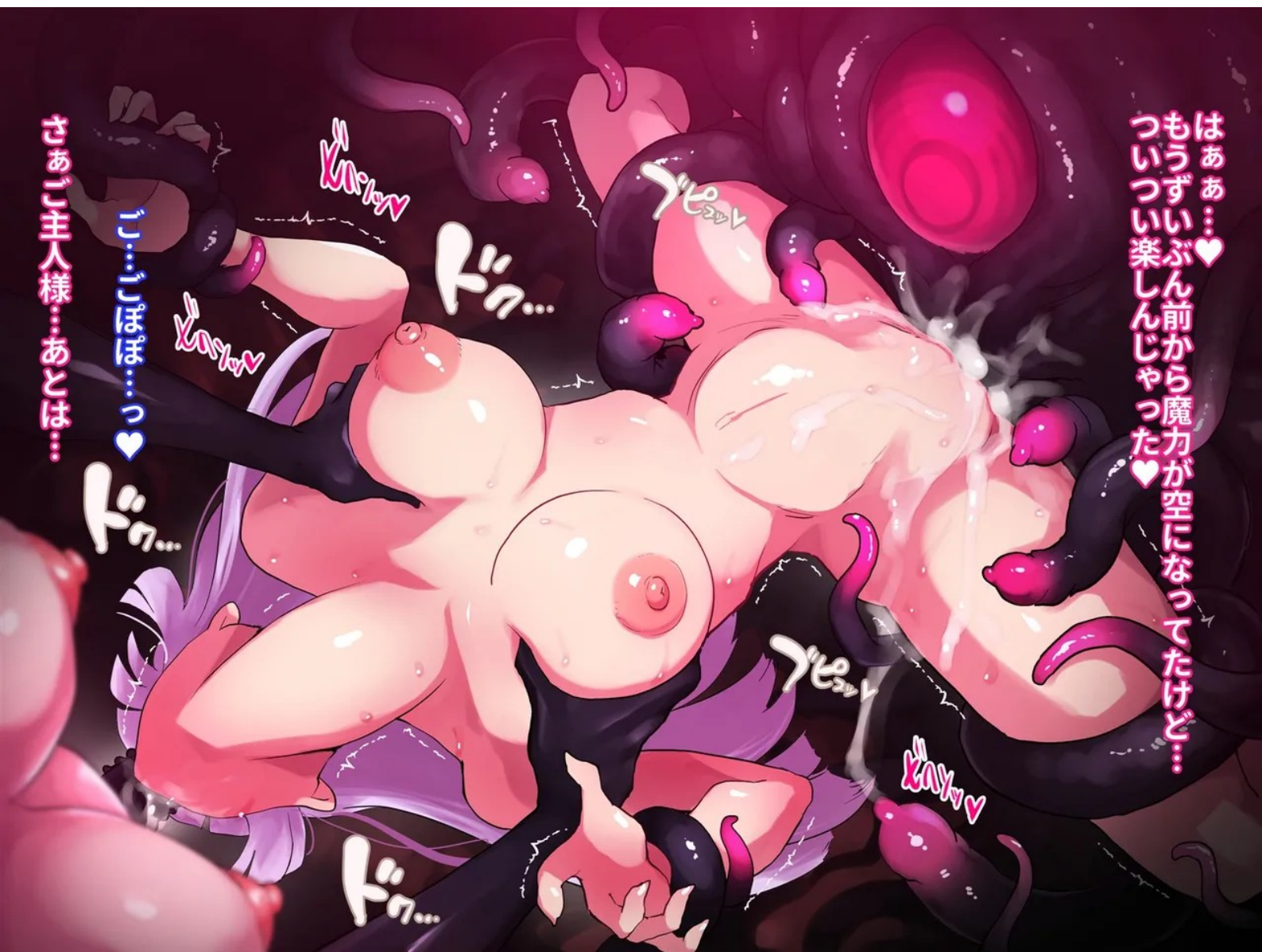
ドク…

グビッ

グビッ

グビッ♡

ドク…



特殊な空間に拘束されたアイシス。
汗と粘液に濡れた肢体は微かに震えるだけで、抵抗する力は残っていない。
目の前におぞましい異形の触手が現れる。

は、離せ…
そんな…そんなもの…

近づけるな…っ

ふふ、アイシス…もう諦めなさい
このご主人様の愛をたっぷり味わうのよ♡



うぐ…っ
くうう…っ!
た、耐えてみせる…っ

私は魔法少女だ…っ!
せ、正義は必ず…





な、何かが…っ

何かが入ってくるうう…っ♡

ひびっ♡

っびっっっっ♡♡♡♡

あ…っ♡あ…っ♡
なん…だ…これ…っ♡お、おかしい…っ♡
からだ…が…おかしく…♡

あはっ♡すごいわっ♡
立派なモノが生えたわね♡



アイシスの深部に眠る、最後の魔力を絞りだそうとするイグニス。生えた触手を握り、ゆっくりと擦るとアイシスに感じたことのない刺激が走る。

これでまだ眠ってる魔力も搾り取れるようになったのよ♡

はぁ♡♡♡

はぁ♡♡♡

はぁ♡♡♡

はぁ♡♡♡

さ、触っちゃだめ…っ♡
あ…っ♡♡♡

おめ♡♡♡

限界まで搾り取ったらどうなっちゃうのかしら？フフフ…♡





ひっ♡ひいっ♡♡や、やめてええ…っ♡
手を…っ♡♡手を放してええっ♡♡

あらあら…もう音を上げるの？
ほらほら出ちゃうっ…もう出ちゃうの？

びんっ

びんっ

びんっ

あ、魔法少女アイシスが
おち○ぽ汁ぴゅっぴゅしちゃうの。

ひいっ♡



い、イグううっ♡♡♡♡

んっ♡

ドッ

んっ♡

んっ♡

あはっでたでたっ♡

んっ♡

んっ♡

これがあの魔法少女アイシスの姿？あはははっ♡

あ…っ♡あああ…っ♡

ビュッ♡

ビュッ♡

ビュッ♡

ち、ちがう…
こんなの…私じゃないい…っ
はうっっ♡

ドゥッ♡

ドゥッ♡

ビュッ♡



まだ意識があるアイシスに伸びる、口のついた触手。
その中は蠢くイボイボとヒダで覆われた肉の筒。

はあ…っ♡はあ…っ♡ま、まけ…ないいい…っ
こ、この程度…でええ…っ

この間にも乳首には常に刺激を与えられている。
意識が朦朧とする中、必死に我を保とうとするアイシス。



アイシスの敏感な触手を包み込む肉筒。
中は暖かく触手から感じたことのない快感が全身を駆け巡る。

ふああ…っ♡は…っ♡う、動かないで…っ♡

おっ♡おうっ♡こ、こんなの…っ♡
ま、またイっちゃうっ…っ♡

思わず腰を引いてしまうが執拗に喰らいついてくる。
腰をくねらせながら必死に耐えるアイシス。





肉筒は深く咥え込み、食欲に締め付けながら搾り取るように蠢く。
内部のイボが敏感な表面を執拗に擦り、彼女の魔力を絞り出すように脈打つ。

は…っ♡あはあぁ…っ♡

ぐきゅっ♡

ぐきゅっ♡

はぁっ♡

はぁっ♡

そ、そんな…っ♡

乳首を這う別の触手がさらに刺激を加え、とろけるような快楽に身を委ねる。



あ……っ!?!?
な、なに……っ!?!?



まるで黒いタールに包まれたかのように隙間なく絡みつく触手。
禍々しい邪悪な魔力で全身を覆われていく。洗脳の最終段階が迫っていた。

ま、負けない……っ！絶対に……っ♡あっ♡
あ……っ♡あああ……っ♡



触手に隙間なく包まれ、すべての性感帯が同時に浸食されている。
もがくことも許されず、彼女はただ震えることしかできなかった。

い……いやだ……わたしは……っ
ま、魔法少女……っ

あ、憧れの魔法少女になれた……のに……っ あ……っ



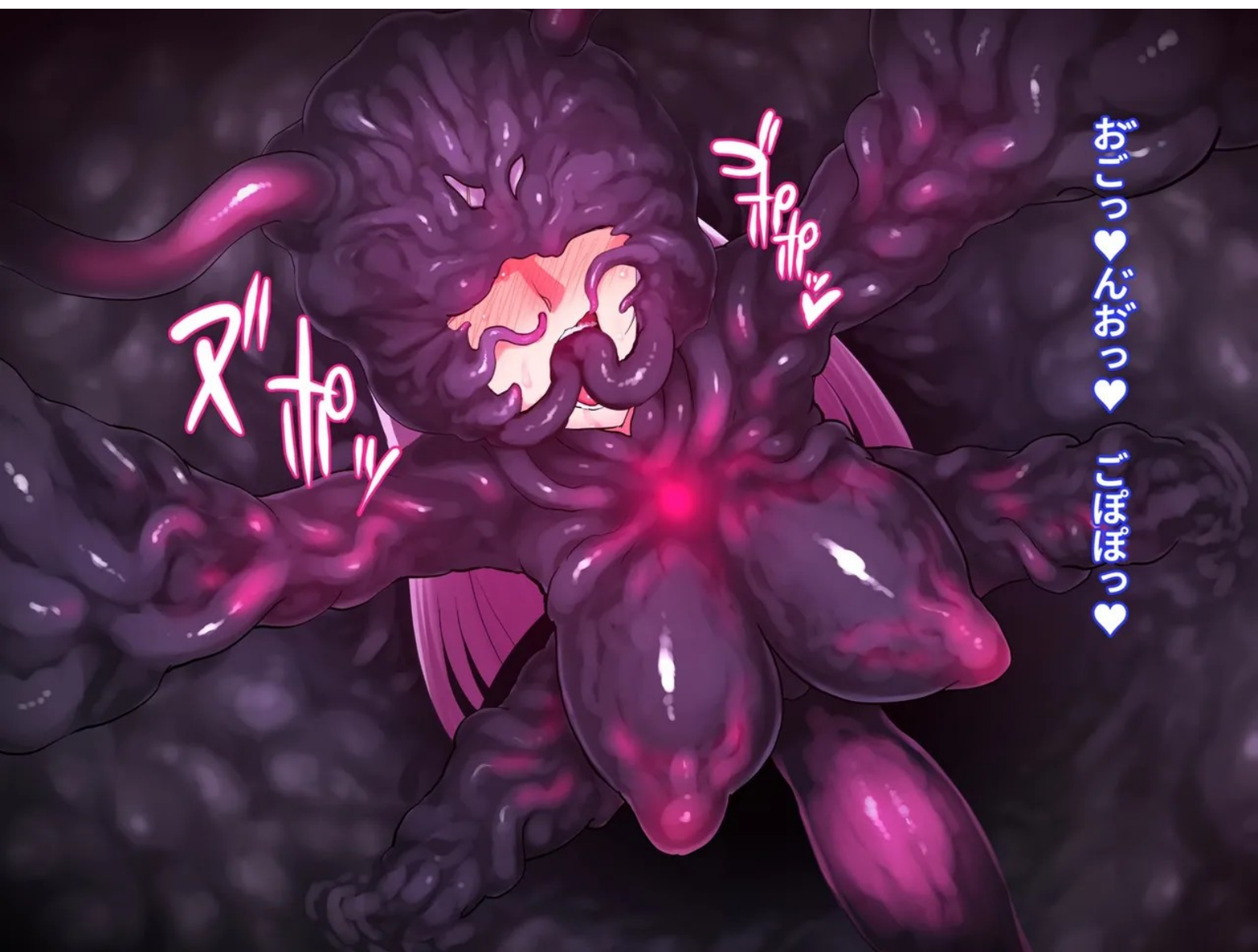


あえっ♡やだっ♡
たしゅけてっ♡

ぐいゅっ

にゅるっ

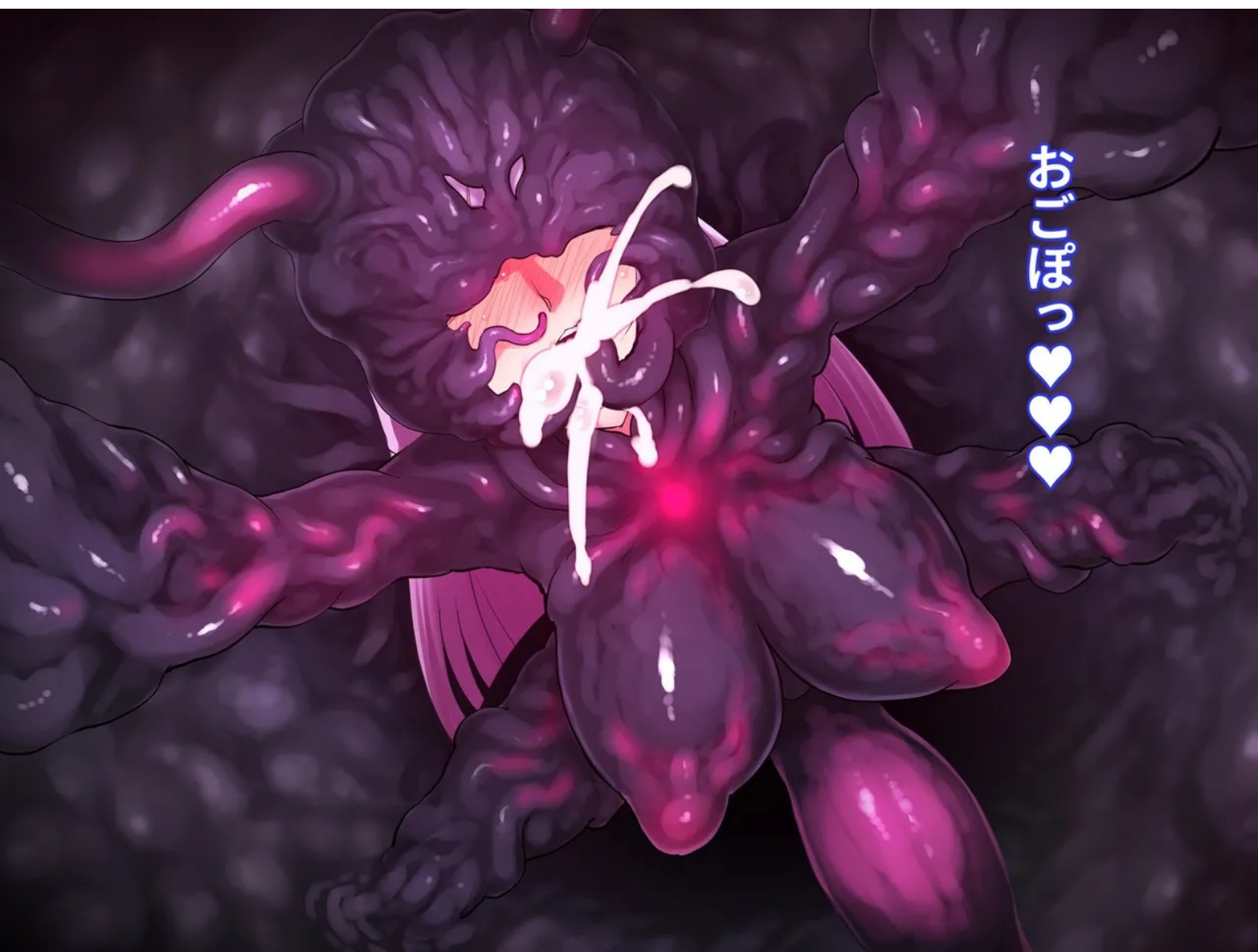
た、たしゅけ…おげえっ♡



スッポッ

ゴッポッ

おごっ♡んおっ♡
うぽぽっ♡



おっぽっ♡♡♡



意識は黒く侵食され、内部から溶かされるような感覚が広がっていく。
記憶は、黒い霧に包まれ、快樂の渦に溶け込むように曖昧になっていく。

彼女の心は、魔物の闇に飲み込まれ、
微かな抵抗の光が永遠に消え去ろうとしていた。



どれだけの時間が経ったのだろうか。
アイシスの意識は、黒い肉の繭の中で溶け合い、時間の感覚すら失っていた。
繭がゆっくりと裂け、出てきたのは邪悪な魔力を放つ魔物の下僕。

粘液に塗れた身体は、かつての魔法少女の面影を完全に失い、
闇の魔法少女として生まれ変わっていた。



きひひ…ふひ…っ…♡
…ほしい…来て…♡

ねえ……ご主人様……ぜんぶ、ちょうだい……♡

羞恥も恐怖もどこかへ消え失せ、絶え間なく注がれる悦楽への渴望。
蕩けた瞳を浮かべるアイシスの唇が、ゆっくりと綻ぶ。





くる、くるっ、また、イクううッ♡♡♡

うあああッ……♡
ん、ああッ……ッ♡

意識の破片すら消え失せた先で、残るのはただ 奉仕という存在意義。

あああ…♡わたしは……ご主人様のもの…♡

あは…っ あははは♡

もう誰かを救う魔法少女ではない。
今の彼女の使命は主の悦びを満たし、悦びを産み続けること…。



アイシスは完全に洗脳され、魔法少女たちを容赦なくその手にかけていく。
邪悪な魔力を帯びた触手が身体を覆い、その瞳は魔物の主への忠誠だけを映す。

ふふ、なんて素晴らしい働きなの

捕らえた少女たちの悲鳴と喘ぎが響く中、イグニスが満足そうに笑う。



魔法少女の誇りも、正義も完全に消え去り、あるのはただ魔物の主への忠誠。
極太触手に翻弄され、悲鳴を上げる魔法少女たちを尻目に次の命令を待つ。

ご主人様…次はどんな魔法少女がお好みですか…？

END

